

<自主的努力項目記入書式>

提携先	(株)高橋徳治商店	記入日	2010/10/8
登録消費材名	全品目		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

- 1、生活クラブと協力、努力して問題解決する。改善、企画等の提案
 - ・ 原料の魚介類、副原料の野菜などが異常気象の影響が大きく、数量や価格に影響してきていることは大きな社会問題です。不定期不定量の水産物原料を如何に有効に使い切るかを考えています。生産者にも食べる側にも私どもが出来る限界が来ていると感じます。
- 2、環境負荷の少ない生産環境に配慮している。
 - ・ 工場排水が終末処理場で負荷がかからない排水の質向上を目指します。
 - ・ 灯油ボイラー蒸気加熱圧力釜の一部をガス直火炊き圧力釜に変更しました
 - ・ 冷凍工場での霜付きを減らす為に頻りに除霜電気の節約と保管物の品質保持に努めました
- 3、積極的に組合員交流や学習会に参加し、【安全・健康・環境】に関する呼びかけ、情報を提供しています。
 - ・ 昨年度末から交流会に関して、事前学習会開催や事前質問を頂き、より組合員や委員の現状に沿った交流会を目指してきた。特に事前質問ではより実態に近い質問が出ている（例：どうして生活クラブの材の価格が高いの？ただ安全なものを買うだけでいいのに色々面倒な集まりや知らせが来るのか？・・・）など基本的な内容への交流会になってきた。生活クラブの加入に際してアフターの役割りも今後交流会のテーマになると考えます。
- 4、原材料のトレーサビリティ・産地・製造時の安全確認・情報開示を呼びかけている

他の生産者に【安全・健康・環境】に関する呼びかけを行っている。

 - ・ 仕入先カット野菜会社の一部変更に伴い、菌・異物混入・品質・原料のトレースなどの面で社長、工場長含め役員、検査室が頻りに通うことで様々な指導を行いかなりの改善が見られた。
 - ・ 課題はカット工場の従業員や主任の製品管理レベルをもう一段上げていかななくてはならないと同時に正副原料仕入先の再度の指導も各社の状況にあわせて行う必要を感じている。
 - ・ 夏に向けてお豆腐揚げの豆腐生産者の衛生指導を冬季の終わり頃から数回行った。設備の一部更新に向けて従業員も含めて問題点の発見に努めました。結果一部だが設備が更新され従業員同士での改善も進み夏を迎える管理が進んでいる。
- 5、品質・衛生に関する管理向上と社員教育に努力している。
 - ・ 品質に関しては、製造時の試食の他、毎日の作業後、担当者試食会実施により更なる品質向上をめざす。
 - ・ 衛生に関しては、朝の衛生チェック・健康チェックから始まり、製造ライン・容器、人の手や腕、原料検査等、毎日検査検体【製品検査30検体、ライン・人、容器等のふき取り検査200検体】を実施し、製造衛生管理の向上に努めています
 - ・ 安全衛生指導で従業員の意識も高まり拭き取りや製品検査の数も減ってきました。衛生担当者には生産現場の安全衛生上の見落としやマニュアルから外れた作業のチェックも考えています。
- 6、単品結集が落ちて、チルド品の製造ロットが極端に減ってきて 工場生産で非効率な生産になりコストに跳ね返る様になった。具体的には、チルド品の生産出荷した残りを冷凍し他所に販売しているが、在庫が増えて困っている。
 - ・ 昨年同様か、或いはもっと厳しい状況になってきている。
- 7、工場生産上 原魚高、食用油脂、でんぷん、エネルギーコスト、今後ますます値上げが予想

される包装資材、物流費、最低賃金上昇など人件費、人員確保などコスト増が経営を圧迫している。加えて菌管理、品質管理、施設設備の改修費などこれまでより厳しい管理強化の要望も多くなり 費用が増大。

- 8、原料となる原魚（魚介類）が、産地とは言え国際的な相場の動きに連動して高値になっております。水産魚介類の輸出がどんどん増えて原魚不足にも拘らず、消費する側には危機的な意識が見られない。5年後或るいは10年後を考えた時、原魚原料に関しては国内外含めてかなり悲観的な見方しかできない。その様な状況にも拘らず、来るべき（或はもう到来している）原魚確保難、資源枯渇、価格高を消費側と連携して中期的に今後3年間をどの様な水産、商品政策で生協としての役割を果たして行くのかを考えて行きたい。産地ではもちろんの事、生産現場は大変な状況に立たされている事を理解していただきたい。
- 原料すり身の再値上げにより採算面の悪化、結集量の低下による稼働率の低下が目下大きな問題です。

9、「04-2-A-02」の項目

洗濯は、石鹼を使用しているが、油を使用している製造ラインについては、油が落ちない為現状ではやむをえず合成洗剤を使用しております。

冷却ラインの自動洗浄（8ライン）は、全て手動洗いに切り替え洗浄殺菌液の大幅な節減と洗い残しゼロを目指しております。

II. 前年に努力したことへの評価(成果や課題)

1、生産現場での取り組み

- 昨年に引き続き 原料管理、生産管理、加工機械管理、品質管理、ロス管理、在庫管理、各部門設定 特に水道・電気に関しては、実質数字を明記し全社員への呼びかけ、効率化を図っております。生産に関しては、クズ=廃棄 を減らす努力し生産性を上げる。
液体窒素の削減。
在庫管理、賞味期限が過ぎた原料や半製品の廃棄が、昨年は600万円ありましたが、今年は限りなくゼロ廃棄を目指します。
- 価格改定（値下げ）もありましたが、社内製造部では「品質向上」をテーマに各生産物の製造上で可能な限り品質向上を目指しました。
- 2010年4月に納入価格を下げましたが、すでに原料すり身は再度値上がりして
おりました。5月～6月中旬にかけて石巻港のスケソウタラのすり身を作り凍結せず生でいくらかでも使用することで品質、採算的にも多少ですが安定させることが出来ました。
- 液体窒素に関しては、ローリー車単位での納入で計量の不透明さを解消すべく新しい計量方法を模索し次年度より採用する回答を頂きました。
- 自社で作るすり身原料の魚の頭・内臓・骨・皮の処理会社の変更を行いました。当社は養殖魚の餌に国産残サの魚粉も混ぜることで添加物が入る輸入魚粉を減らせるということでした。
- 賞味期限などの問題で廃棄金額はゼロにはなりませんでしたが、100万円強と昨年より大幅に削減されました。
- また生産上の失敗品（色付き不良、壊れ、成型不良、重量不足・・・）は16トンから11トンと5トン（約30%）削減できました。
- 生産機械～包装機等の管理・・・前年に引き続き、今期も業者によるメンテを実施
今年度も修理費用削減に向けてできる限り修理の内製化や定期的メンテナンスに努めました。
課題として、古い機械からか二箇所包装機械を制御するタッチパネルや操作部制御機器の在庫がなく新規機械の導入を考えざるを得なくなってきたことです。

2、前年度計画の労働安全委員を各部署の衛生担当者に兼任し、定期的な労働安全・衛生教室を設置年間計画を実施致しました。

今期2009年4月～2010年3月まで 9回・・・労務士講師を招いて労働安全衛生教室を実施し、委員を中心に活動致しました。

3、積極的に組合員交流や学習会に参加し、【安全・健康・環境】に関する呼びかけ情報を提供しています。

- ・ 2009年度交流会実施・・・13箇所・・・約488人（北は青森→南は長野迄）
- ・ 今年度も積極的に交流会、大試食会に参加いたしました。
- ・ 課題としては、組合員の生活クラブへの理解度が落ちてきているのを感じます。

4、六ヶ所村核燃料リサイクル施設反対運動を2006年11月から県内外に広め署名活動継続中

・ 賛同人や呼びかけ人として県内の反対集会に参加いたしました。広く集会参加人をお願いし継続して広がりを見せております。県外の組織とも提携しての広がりも確認できました。

今年度は、石巻でも核燃料廃棄物やリサイクルの問題で集会を持ち仙台とも連携し学習会を行いました。

活断層の問題に関しても隣の女川町議員、市議会議員、県議会議員も含めた市民対象の学習会を催しました。

佐賀、愛媛、福島のプルサーマル発電導入と宮城県の導入合意などについての話も行いました。

地元の反対署名に全従業員と家族の広がりを持ちました。宮城県女川町のプルサーマル発電に関してもあえて会社名を出して反対署名運動を行ってまいりました

今年度は宮城県内のプルサーマル発電導入阻止を訴えてまいりましたが、残念ながら女川町・石巻市・宮城県の首長階段により導入が決定され東北電力側に通達されました、正式稼働には至っておりません。隣の福島県では導入決定後9月中旬には挿入実験で発電の臨界点に達したとの報告もありましたが福島県のは導入決定後30年の日本でもかなり古い原子炉であり正式稼働後その影響が懸念されております。

- ・ 2010年5月で本社のPCBの全量31kgを処理しました。

5、2008年に引き続き、豆腐工場への菌管理を指導しておりますが、消費材お豆腐揚げ原料豆腐は問題なく供給できています。

- ・ 今年度も菌検査に基づいて指導を行いました。結果設備機器の更新、配管改修など重要管理点に沿った改修や従業員教育やマニュアル化が功を奏して暑い夏も何とか乗り切れました。

Ⅲ. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

1、生産現場での取組み

- ・ 加工部門スタッフのそれぞれの課題を個別面談して目標を設定しました。結果、技術面向上～などレベルアップにつながり、6月～7月以降新たな目標設定に向け進めております
- ・ 次世代を担う若手社員に向けて終業後に学習会を開催（12名）・・・水産経済新聞の記事を読んできて切抜きし全員の前で感想や意見を発表し社長や工場長が質問や日々の業務へ落とし込みを

しているところです。週辺り平均4日開催。

- ・原料管理、生産管理、加工機械管理、品質管理、ロス管理、在庫管理、各部門設定
ロス管理、在庫管理に関しては、実質数字を明記し全社員への呼びかけ、効率化を図っております。結果達成できた事、できなかった事等新たな取組みを昨年度に引き続き継続していきます
- ・年間かなりの数量にのぼる製品ロスについて、製造ラインでも、2008年1月より日報を刷新し、機械、ライン、熱効率、製造工程など色々な側面からロスの原因を探り、今秋より具体的なロス低減を行い 24%削減を目標にしました＝わずかでも原料高騰に伴う製造原価の上昇をおさえ生産資源の無駄を減らし、廃棄物処理の環境負荷や処理費用を減らします。
- ・昨年度は 30%の製品ロス削減を達成し産廃費用も削減できましたが、今年度は昨対で 10%削減を目指します。加工の全ての工程の見直しや技術の向上を伴わなければ計画に達することができないので、スタッフが力をつけてきているというメリットは大きいと考えます。
- ・液体窒素は冷却や凍結で使用しておりますが、遡れば空気を機械的に圧縮して液体酸素と窒素を取り出しており、メーカーではかなりの電気を使っています。使用量の削減は製造経費の削減と電気の削減になります。昨年度は 5%の削減を達成できました。今期も引き続き 5%削減をめざします。
- ・今年度は、液体窒素納入時の新計量システム導入に伴い年間推定で 120 万円の削減につなげると同時に使用量削減も行います。
- ・廃棄物の分別（紙・プラスチックなど）で廃棄率の低減と廃棄物処理量の低減に今年度は管理部門から徐々に生産部門まで広げます。

2、積極的に組合員交流や学習会に参加し、【安全・健康・環境】に関する呼びかけ情報を提供しています。できる限り今年度も参加組合員拡大に努めて参ります。

3、「04-8-A-01」項目

- ・高濃度の汚水の出るスリミ工場の汚水に関しては、30年前より組合での一時処理、市の処理場での終末処理と河川放流基準を遵守しておりますが、廃業が相次ぐ中で、組合の経営も厳しく私どもも含めて現在3社のみ汚水を流しており組合経営を維持しております。・・・当社が加盟している組合での汚水処理事業の不採算での負担をなくす為、地元の大学と産学でバクテリアや化学凝集材を使わない汚水処理の試験を開始し、できれば廃棄物の循環利用と共に安全で低コストで廃棄物を極端に減少させた排水事業に発展させていきたいと考えます。
- ・今年度も継続して実験事業に取り組むようになりました。

4、「5-1-A-1」の項目

洗濯は、石鹼を使用しているが、油を使用しているラインについては、油が落ちない為現状ではやむをえず合成洗剤を使用しております。目標として合成洗剤使用量を減らす努力を実施しております。今年度も引き続き使用箇所の見直しを含め使用量を減らす努力を致します。合成洗剤に代わる機械洗浄専用の薬品が、生分解性も高く環境にもやさしいので昨年度から洗浄実験しておりましたが 完全に大型機械内部の油分が落ちる確認ができない為、断念することにしました。

- ・今年度8月より洗浄剤の使用を減らす目的で、全自動洗浄を廃止し、洗浄剤を機械的に発泡させ 手動でそれを機械内部に吹き付けることで 合成洗浄剤の使用を半分にして洗浄後のすすぎ水も節減し環境への負荷を減らすことで実行し始めました。

- 5、 廃油を定期的に障害者施設に提供し石鹼にしております。
本年度より上記施設の他、食用廃油をバイオエタノール（バイオディーゼル向け）に業者に販売しております。
・年間37トン排出される廃油で宮城県の廃棄物原料プログラムのコンサルタントと共同で廃油の有効利用を探ろうと考えています。
- 6、 漁場などの環境保全への働きかけ＝市の水産課などを通じ、現状の漁場環境の実体や情報の交換等 環境保全への働きかけを行っております。
・社内で労働災害や品質管理・菌管理の学習や教育を通じて意識向上を目指す目的で製造包装、冷凍倉庫など各部門から代表者15名で安全衛生委員会を作っております。社会保険労務士の先生を講師に毎月就業後90分程度の講習を受け意見交換や学習を重ねております。
安全衛生委員は、今年度も引き続いて人的事故ゼロ、菌・品質事故ゼロを目指して頑張ります。
- 7、 水産に関して、消費する側の実態と対策の話と、ある意味流通業の面を持つ生協の方向性の話と、もっとも危機感を持っている生産者の現場や産地レベルの話と、分けての議論が今年初めてされてきたが、今後もっと深めた議論が必要と考えます。
・ 2008年に同意を得た連合会の水産政策に基づいて2009年8月19～20日にかけて、当社にて三陸沿岸生産者と連合会の話し合いが持たれ活発な議論がなされました。